



(1) 懐徳堂、適塾

懐徳堂は1724(享保9)年、大坂町人によって創設された学問所で、江戸時代後半の約140年にわたって大阪学術の発展と高徳道の育成に貢献。適塾は蘭方の医者・学者で、教育者でもあった緒方洪庵が1838(天保9)~1862(文久2)年にかつ大阪・船場に開いた蘭学の私塾で、福沢諭吉や大島圭介、橋本左内、大村益次郎ら、日本の近代化に大きく貢献した多数の人材を輩出した。

(2) めばえ適塾

世界で広く活躍できる科学的思考を持った人材を育てることを目標にした小中高生を対象とした教育プログラム。習熟度に応じた3ステップによる実践的な研究活動を通じて科学的思考を育てる。

(3) SEEDSプログラム

文理の枠を超えた世界最先端の「知」にいち早く触れることができる、主に高校生を対象としたプログラム。複数のコースがあり、ディスカッションや留学生との交流等を通じて、それぞれが抱く好奇心の芽を大きく伸ばすことを目指している。

(4) 学問への扉 (愛称:マチカネゼミ)

高校までのSTEAM教育を大学の専門課程に繋げ、受動的で知識蓄積型の学びから、主体的で独創的な学びへと転換することを目的に、学部1年次生全員を対象に開講している少人数セミナー型の必修科目。学生は所属する学部にかかわらず、多種多様な分野から履修科目を選択し、研究者との直接的な対話によって学びへの新たな意識を喚起させるとともに、異分野の学生が交わることで新しいものの見方や課題解決の手法を知ることができる。

(5) マルチリンガル・エキスパート養成プログラム

国立総合大学のなかで外国語学部を有する唯一の存在となった大阪大学ならではの部局横断的な教育プログラム。文系学部と一部の理系学部がそれぞれの専門分野の授業を提供し合うことで、多言語・多文化に精通し、現代世界の喫緊の課題に取り組む専門的な知識を備えたグローバルに活躍できる人材を育成することを旨とする。例えば、外国語学部の学生が工学部のプログラムに参加して工学の基礎を学んだり、法学部の学生が外国語学部の専門教育レベルの語学プログラムに参加して多様な言語を学んだりといった、学部・研究科の枠を超えた学びの機会を提供している。

座学中心の従来型カリキュラムだけでなく、演習や反転学習を中心とした多彩で国際性豊かなカリキュラムを自由に選択できる修学プログラムを整備するとともに、「めばえ適塾」や「SEEDSプログラム」といった小中高生を対象とした事業にも力を入れて取り組んでいます。大阪大学は、新たな大学のモデルを確立し、これからも世界最高水準の研究大学として常に革新的な教育研究成果によって、未来社会の創造を実現していきます。

大阪大学の教育の基本は、学問の真髄を極める専門性の獲得に加え、幅広い見識に基づく確かな社会的判断力としての教養、異なる文化的背景をもつ人と対話できる国際性、自由なイマジネーションと横断的なネットワークを構想するデザイン力を備えた人材の育成にあります。そのため、大阪大学では2019年度から「教養教育」「専門教育」「国際性涵養教育」の三つの柱を大学入学から大学院修了まで一貫して行う教育体系を構築。「学問への扉(愛称:マチカネゼミ)」をはじめとする全学共通教育の改革や、「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム」の提供、学部高年次から大学院における教養教育と国際性涵養教育である「高度教養教育科目」「高度国際性涵養教育科目」の必修

大阪大学の教育体系



「すべの病気の克服」を目指す研究ハブ拠点として活動を展開しています。なお、このPRIMEは、本学としては免疫学フロンティア研究センター(IFREC)に次

ぐ二つ目の文部科学省・世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)に採択された拠点です。大阪大学は数多くの企業との共同研究を実施しており、その数は日本有数の実績を誇ります。大学内には企業の研究所が多数設置されており、大学院生は大学にいながら企業の研究活動に参加することができます。大学と企業の研究者の両方から指導を受けることで学術的な専門性を高められるとともに、早くから企業の考え方に触れることで研究の事業化、社会実装を見据えた実践力を得ることができま。大阪大学ではこうした機会を通じて社会課題の解決に貢献する人材教育を行っています。

また、大阪大学ではスタートアップや学生起業などを志すイノベーション人材の輩出も重んじており、学部学生や大学院生、若手研究者等が参加するオープンなコミュニティ(大阪大学イノベーターズクラブ)を母体として、学内外組織と連携しながら入門・基礎から実践に至るまでの系統的なアントレプレナー教育

プログラムを企画・提供しています。さらに、国際的な連携に関しては、「地球規模課題解決への貢献」という目的を共有する海外の有力大学であるグローバルナレッジパートナー校と研究グループを形成し、共同研究などを推進しています。また、長きにわたり交流を続けてきたASEAN地域の大学との強固な連携のもと、タイ、インドネシア、ベトナム、ブルネイ、マレーシアの5か国にASEANキャンパスを設置しており、教育プログラムや共同研究を行っています。

してきました。その一つとして、2022年度には世界で初めてヒューマン・オルガ

ノイド生命医科学と情報・数理科学の本格的な融合に取り組む「ヒューマン・メタバース疾患研究拠点(PRI-ME)」

を拠点化しました。多様な研究機関・大学と連携して国際的に研究を進めていることも特徴で、人類の壮大な目標である

「地球規模課題解決への貢献」という目的を共有する海外の有力大学であるグローバルナレッジパートナー校と研究グループを形成し、共同研究などを推進しています。また、長きにわたり交流を続けてきたASEAN地域の大学との強固な連携のもと、タイ、インドネシア、ベトナム、ブルネイ、マレーシアの5か国にASEANキャンパスを設置しており、教育プログラムや共同研究を行っています。

大学院生を「大阪大学女子大学院生優秀研究賞」として表彰する取り組みも行っていきます。令和8年度入試からは、基礎工学部学校推薦型選抜において女性枠を新設します。大阪大学では、Diversity & Inclusionに加えたDE&I実現のため、これらの取組を「女子学生の教育体制の充実総合パッケージ」として積極的に推進しています。



にしおしろうじろう 西尾章治郎総長
1975年京都大学工学部卒業。80年同大学大学院工学研究科博士後期課程修了(工学博士)。専門はデータ工学。カナダ・ウオータールー大学客員研究助教授、大阪大学教授、同大学理事・副学長などを経て2015年より現職。2016年文化功労者。

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-1 教育・学生支援部入試課 TEL 06-6879-7096 https://www.osaka-u.ac.jp/ja

大阪大学

生きがいを育む 社会の創造へ

大阪の政財界および市民の強い要望を受け、1931年に帝国大学の一つとして創立された大阪大学。その精神的源流は江戸時代の懐徳堂と適塾に見出すことができます。

2018年には、世界最高水準の先駆的な教育研究活動を推進する大学として「指定国立大学法人」に選定されました。中長期的な経営ビジョン「OU (Osaka University) マスタープラン」で掲げる「生きがいを育む社会」の創造のため、アジアから世界に向けて社会変革を先導する新たな大学像を探索しています。

社会変革に必要な新価値の創造や、社会課題の解決に挑戦する卓越人材の基盤となるのは「総合知」です。自由な発想に基づき総合知を生み出す場を構築するため、大阪大学では組織の垣根を超えた教育・研究拠点の設置に全学を挙げて取り組むとともに、卓越人材の育成に向けた独自の教育システムを構築し、学生自身による新価値創造を支援しています。

専門性に加え教養、国際性、デザイン力を備えた人材を育成

大阪大学の教育の基本は、学問の真髄を極める専門性の獲得に加え、幅広い見識に基づく確かな社会的判断力としての教養、異なる文化的背景をもつ人と対話できる国際性、自由なイマジネーションと横断的なネットワークを構想するデザイン力を備えた人材の育成にあります。

そのため、大阪大学では2019年度から「教養教育」「専門教育」「国際性涵養教育」の三つの柱を大学入学から大学院修了まで一貫して行う教育体系を構築。「学問への扉(愛称:マチカネゼミ)」をはじめとする全学共通教育の改革や、「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム」の提供、学部高年次から大学院における教養教育と国際性涵養教育である「高度教養教育科目」「高度国際性涵養教育科目」の必修

プログラムを企画・提供しています。さらに、国際的な連携に関しては、「地球規模課題解決への貢献」という目的を共有する海外の有力大学であるグローバルナレッジパートナー校と研究グループを形成し、共同研究などを推進しています。また、長きにわたり交流を続けてきたASEAN地域の大学との強固な連携のもと、タイ、インドネシア、ベトナム、ブルネイ、マレーシアの5か国にASEANキャンパスを設置しており、教育プログラムや共同研究を行っています。



留学期間が多様化し、海外の協定校とオンラインで相互に科目提供を行う「Osaka University Virtual Study Abroad Program」(バーチャル留学プログラム)のほか、現地の短期語学研修へも多くの学生が参加しています。夏季休業や春季休業期間を利用して、海外の大学での英語コースの受講やフィールドワーク、英語によるプレゼンテーション研修などを通じて、国際的に活躍するための課題解決能力を身につけることができます。

こうした教育・学修成果を可視化するため、デジタル技術を最大限に活用して学修者本位の教育を推進し、データに基づいた個別最適な学生・学習支援を入学前から卒業・修了後までの学生一人ひとりに提供するシステム(Student Life Cycle Supportシステム)の構築を進めています。

世界最先端の研究を展開 地球規模の課題解決に挑む

大阪大学では、免疫学や量子情報・量子生命、生命医科学融合、共生知能システムなどの卓越した学術領域の研究拠点を形成するため、「世界最先端研究機構」や「先導的学際研究機構」などの枠組みを構築